



広瀬市長 所信表明



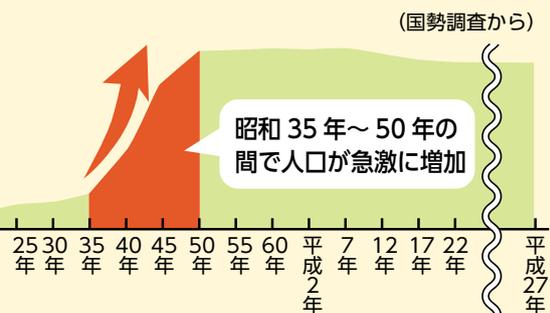
5月に就任した広瀬市長が、市議会6月定例会で、任期4年の中で取り組んでいく市政運営の考え方を表明しました。今月の特集では、その内容について、分かりやすくお伝えします。

所信表明の全文は、市ホームページ「企画政策課」(右のQRコード)をご覧ください。



QRコード

問 企画政策課 (☎825・2016)



昭和35年に5万人程度だった人口は、15年後の昭和50年には25万人を超える

①「市民サービスの危機」
シルバー世代の市民の皆さまの人口割合が急速に増加することで、今後、社会保障関連のコストが大幅に増加し、近い将来、市の経営を圧迫する可能性、そして割合が他市と比べても高いことです。

私は、寝屋川市の「2つの危機」についてのご説明をしております。

当時の人口増加率日本一(昭和50年国勢調査における人口10万人以上の市の順位)
短期間で集中整備した公共施設やインフラなどの整備(昭和59年度から63年度の間「赤字日本一」)
大量の職員採用、人件費の上昇による緊縮財政

「運命づけられた」問題
「予測された」問題
この「2つの危機」は寝屋川市が誕生し、急速に成長する過程で「運命づけられた」問題、言い換えれば「予測された問題」だったと言えます。つまり、その原因は、寝屋川市が過去に経験した「急激な人口増加」と、それに起因する人口の「年齢構成のバランスの悪さ」にあると考えます。

寝屋川市の2つの危機
今般伝統ある寝屋川市の第9代の市長としてその重責を担うこととなりました。中核市・寝屋川市の「第一幕」を担う新たな時代の舵取り役として、その責任の重さ・大きさに身の引き締まる思いであります。
市民の生活を守ることを使命として、今後の市政執行に臨んでまいります。





第9代 寝屋川市長

広瀬 慶輔 (ひろせ けいすけ)

プロフィール

生年月日 昭和45年8月31日
 経歴 寝屋川市立成美小学校
 寝屋川市立第九中学校
 私立上宮高等学校
 明治大学政治経済学部経済学科
 明治大学大学院政治経済学研究科
 博士前期課程修了政治学(行政学) 修士号取得
 (専門分野/自治体経営・広域行政)
 平成11年寝屋川市議会議員(1期目)
 平成15年寝屋川市議会議員(2期目)
 平成19年寝屋川市議会議員(3期目)

市長が

地域に出向き、直接対話します

市政をさらに良くしていくには、市民の皆さんの意見が重要です。

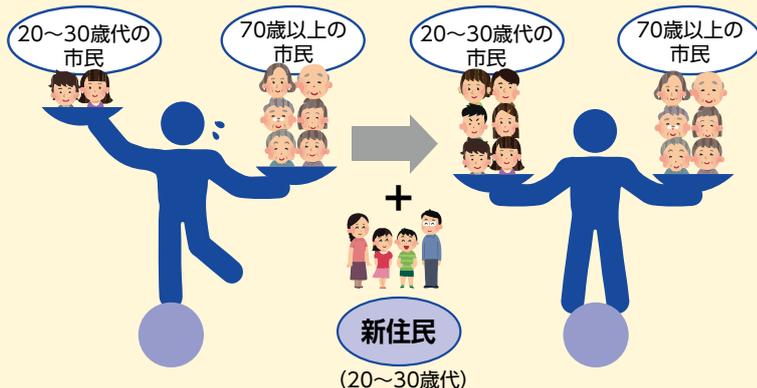
そこで、市長が皆さんのまちな出向いて、直接対話する機会を設けます。

皆さんの意見を市政に反映していきます。詳しくは次号以降でお知らせします。

結果

人口の年齢構成の平準化が可能となり、市の支出と税収のバランスが是正され、将来負担予測・計算が可能となります。

寝屋川市が今後、安定的な行財政運営を行い、市民の皆さまへの充実したサービスの提供を継続的に行っていくためには、「最大の課題である」人口の年齢構成のバランスの補正、つまり「人口の年齢構成のバランス」が不可欠です。そのためには20代〜30代の子育て世代を「ターゲット」とした新住民の「移植」を積極的に行う必要があります。



新たな寝屋川市へ
2軸化構想



年齢構成の
リ
バ
ラ
ン
ス

② 「公共施設・都市インフラの危機」

現在、寝屋川市内にある公共建築物の約85%が築40年を経過しつつあり、今後随時耐用年数を超え、その老朽化対策

(万人) 30 25 20 15 10 5 0 昭和20年

危機の原因



学研都市軸

潜在的に高いポテンシャルを持ちながら未だ正当な評価を受けていない学研都市線沿線のまちづくりを戦略的かつ大胆に進めるため、寝屋川公園駅を中心とした沿線の広範な「グランドデザイン」を戦略的に描き、それに基づいて都市計画などの大胆な緩和・変更を加えていきます。



まちづくりの メインアイコン「小中一貫校」

小中一貫校をモデル校・旗艦校として、全国学力・学習状況調査で常に上位の成績を収めている秋田県の方式などの調査・検証を行い、それらを参考に「寝屋川方式」の学習法を確立し本市の学力向上に努めます。

2軸化構想

市内全域の人口の年齢構成のリバランスを行い、税収の構造を安定化させるため、京阪沿線の「京阪軸」に加え、学研都市線沿線の「学研都市軸」のまちづくりを積極的に進め、子育て世代を中心とした担税力に富む若い世代をターゲットとして誘致します。



を守る

～より細やかな
市民生活への対応～

◆北川前市長の基本方針を継承

- 特に、防犯と体感治安の改善に引き続き積極的取り組みます。
- いじめの問題・虐待問題など、市民の命と生活そして尊厳を脅かす様々な問題への対応を一元的にコントロールし、即応できる体制の整備とそれに伴う機構改革を行います。





京阪軸

日本一と言われた人口増加のメインステージは京阪沿線でした。沿線では人口の年齢構成を見ると、現在シルバー世代の割合が相対的に高く、年齢構成に大きな偏りがあります。



ターミナル化構想

「市民サービスの提供」を公共交通機関の結節点である駅周辺に集約します。「将来の市役所の規模・あり方」自体を含む「公共施設・サービス」のあり方を再検討し、「市民の皆さんの利便性」を最優先とした「公共施設・機能・サービス」の再配置、集約化を行います。



高齢社会における都市交通網の提案

既存の公共交通網を補完する「第三の公共交通機関網」として、シルバー世代の皆さんや妊娠中の皆さんが電話一本で、無料で利用できるオンデマンド型の「乗合いワゴン」の実験導入を行います。

(イメージ)

先を見る力

将来変わってゆくであろうその先のそれぞれの姿を予測し、そこからの逆算で現在のあり方を検証し見直していく力

稼ぐ力

ハード面・ソフト面双方の「市の持つ経営資源」を最大かつ有効に活用し、市の独自財源を涵養(かんよう)していく力

市役所に求められる

4つの力

発信する力

新しい時代の寝屋川市のあり方、姿勢、ビジョンを市民の皆さまへ積極的に「発信」し、市民の皆さまに「理解していただく」ことまでを含めた力

寄り添う力

「利便性」と「顧客満足」を最重要の指標としつつ、徹底的に住民ファーストのサービス提供を全職員が強く意識しつつ業務にあたることから生まれる力



公務員の働き方改革

~ねやがわスタイル 全国に発信~

- フレックスタイム制度など、より自由で弾力的な勤務時間を選択でき、多様なライフスタイルに合わせることでできる制度を実験導入します。
- 寝屋川市を退職した職員に対する再チャレンジ採用制度を導入します。